

カンボジアにおけるエイズ予防対策プロジェクト

～紙芝居による啓蒙活動～

菅野由希子・呂維杰・山田智子・許田真理子・川村奈津美

カンボジアはエイズの感染者数がアジアで最も多い国の一つであり¹、感染者の60パーセントは24歳以下の青少年である。これから家庭を築いていく若者たちがエイズとその予防方法についての十分な知識を得ることは、将来的に見て国内の感染拡大を防ぐのに重要な役割を果たす。そのため、エイズ予防の啓蒙活動が必要である。しかし、カンボジアの農村地域での識字率は低く²健康保健に関する知識を文字によって得ることは難しい。そこで、私たちは紙芝居という視聴覚教材を用い、文字の読めない人がエイズ予防に関する知識を得るためのプロジェクトを考えた。³

対象とするのはタケオ州⁴で、自動車とバイクで村をまわり紙芝居を行って、人々にエイズ予防の知識を広めていく。まず、日本での拠点を決めスタッフを募集する。現地スタッフ五人（うち二人が通訳、一人が医師もしくは保健士）、日本の拠点に二人である。出発する前に、現地に派遣するスタッフには、一ヶ月間の研修を行い、最低限の語学、関係する医療知識を身につけてもらう。スタッフの条件としては、健康であり、表現力豊かな人が望ましい。

紙芝居や移動手段である車やバイクなど日本で調達できるものは日本から持っていく。現地に到着したら、最初にその村のリーダーを招き、わたしたちのプロジェクトの説明を聞いてもらい、意見交換をする。合意を得て、村人と協力し活動の拠点となる建物を建造する。

第一次計画として、最初に建造した建物を拠点にし、その村で日本から持ってきた紙芝居を行い人々に見てもらう。紙芝居の後、その内容のピラを持ち帰ってもらい、その内容を家族に伝えることを集まった全員に促す。このピラはイラストを中心としたものにし、子どもから大人まで理解できるようにする。そして今後のエイズ予防と健康保健に役立ててもらおう。そしてこの他、健康相談の時間を設ける。こうして人々のエイズに対する認識や健康に関する知識を深めてゆく。最初の村での活動期間は三ヶ月間にし、最初の拠点をおいた村にはスタッフを常に二名配置しておく。第二次計画でさらに広範囲にタケオ州全体を網羅する予定である。タケオ州の総村数が1,116であり、総人口は790,168人と多いため、啓蒙活動と平行して、現地で紙芝居をそれ以降継続する人材を育成し、他の村々を

¹ 01年の時点で全人口の2.8%、02年には2.6%と減少傾向にあるが、未だ感染率はアジアの中では高い。(UNDPの年間レポートによる)

² アジアにおける00年の識字率は、17カ国中11位である。

<http://www.accu.or.jp/shikiji/overview/ov04j.htm>

³ 文字ではなくイラストなどを用いた方がわかりやすいという、住民の意見を反映させたものである。

⁴ タケオ州ではNGOによる「青少年のエイズ予防プロジェクト」が行われているので、住民の協力を得やすいであろうことを考慮した。

まわってもらおう。このとき、村々での活動をよりスムーズに行うために、住民どうしの口コミによる伝播協力を求める。可能ならばその後、タケオ州以外からの要望にしたがって、そこへ赴いて啓蒙活動を行う。この間行われた活動については、随時日本のスタッフに伝え、ウェブ上で公開し、今後の運営を継続させるために、募金・寄付金を集め、新たに協力できる人材を募る。

プロジェクト資金である 3000 万円の内訳としては、準備資金が 1000 万円、活動資金を月 150 万円×12 ヶ月の 1800 万円、残りの 200 万円を活動後の報告書製作に当てる。このうち準備資金の内訳は、移動手段としての車とバイク、航空券、紙芝居セット（紙、木枠等）、ピラ印刷代、避妊具、黒板とチョーク、ランプ、テント、交流資金（日本のお土産など）である。次に、月々の運営費として、派遣員の生活費、車両維持費、通信費、村人の医療面での援助金（桃太郎、浦島太郎、かぐや姫など）の紙芝居を提供することを提案する。

実際に行う紙芝居の内容としては、まずエイズの恐ろしさについてである。エイズは発病すれば死亡率が極めて高く、まだ治療法が確立されていない病気であることを伝える。次に、エイズに感染しないようにするにはどうすればよいか（無責任な性交をしない、コンドームは正しく使う、注射器の共用はしないなど）そして、感染したらどうなるか（潜伏期間から発病まで）についてである。また、エイズの他に、飲み水やお手洗いなど、衛生面で日常的に注意すべきことも合わせて学んでもらう。このとき、性的に活動的とされる人々（15 歳～49 歳）と 15 歳以下の子供たちとに分けて、年齢に応じた紙芝居を提供する。

このプロジェクトは一年間という短い期間で行われるため、思うように大きな成果が得られないかもしれない。しかしながら、この活動を通して村人がエイズ予防と健康保健の知識を深めるきっかけとなることを望む。また、健康についての知識があれば病気を防ぐことができ、結果としては不要な家計からの出費が抑えられることになる。これを機に、村人たち自身の手によって正しい知識が広がることがこのプロジェクトの最大の目的である。